

# 歴史と街づくり活動の経緯

## 1. まちなみの歴史

新屋地区は、秋田市西南、雄物川河口の左岸に位置し、江戸時代には川湊が築かれ、秋田－酒田間の「羽州浜街道」（酒田街道）の一つ目の宿場町として大いに栄えた地区です。

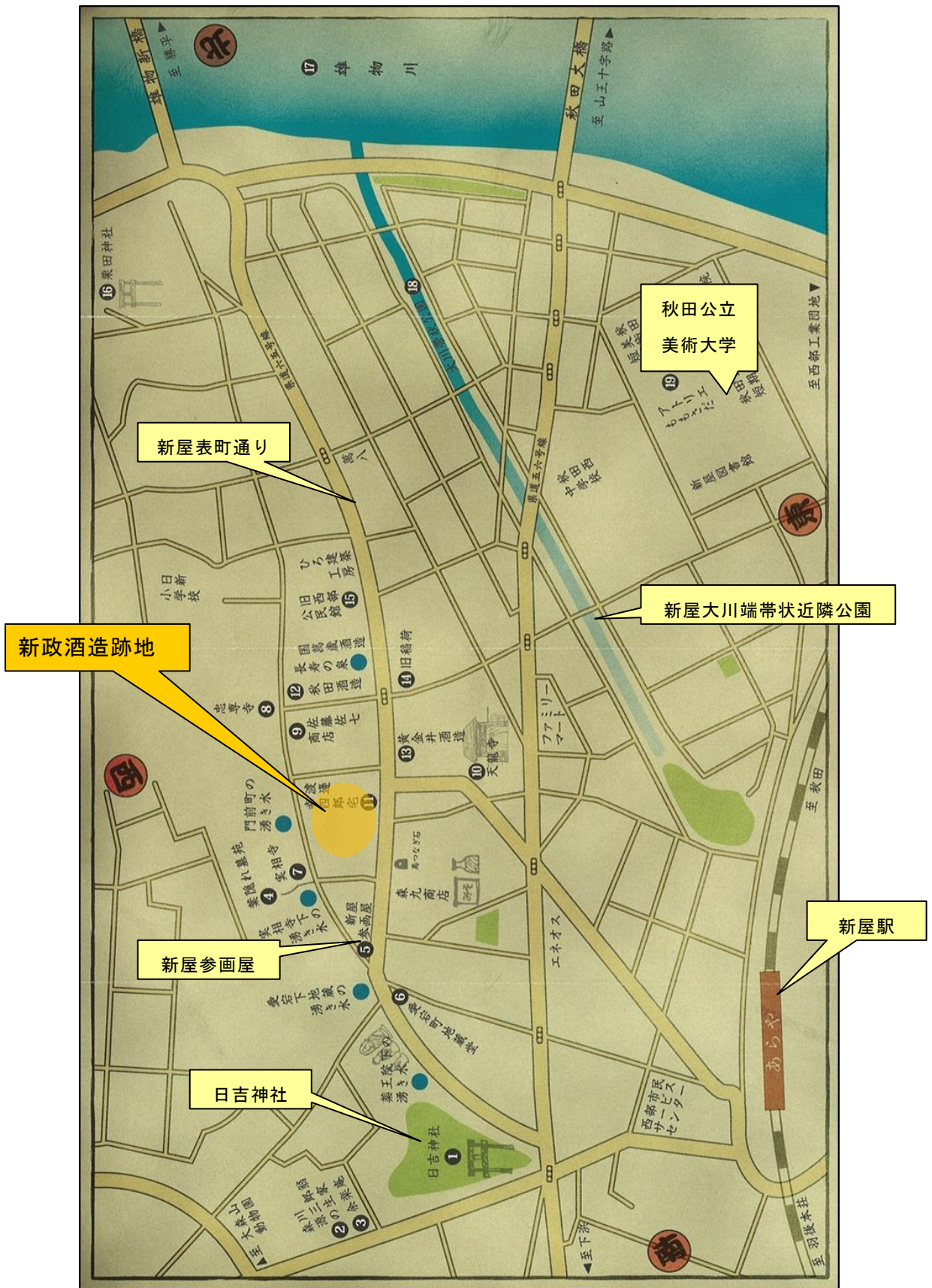
水運業のほか、海岸砂丘がもたらす湧水の恵みで醸造業が発展し、酒・しょうゆ・味噌・塩魚汁（しょつつる）・うどん・白玉などが製造される「秋田の台所」とも呼ばれる地区でした。

まちの骨格を構成しているのは、西側の丘陵沿いを南北に通る「羽州浜街道」（酒田街道）と、その東側を平行に通る「新屋表町通り」で、かつてはこの通り沿いに、切妻屋根、妻入、小羽葺、2階建てを特徴とした町屋や酒蔵が建ち並んでいました。

こうしたまちなみは、1814年(文化11年)、1886年(明治19年)の大火で多くが失われ、近年の建て替えや醸造業の衰退などにより変化していますが、現在も3つの建物が国登録有形文化財として指定されているほか、町家形式の建物7棟(周辺区域を含めると15棟)、蔵17棟(同20棟)、その他社寺、歴史的な雰囲気を感じさせる古い建物が点在しています。

また、通り沿いに湧き水が流れ出る場所が3か所(同5か所)あり、「湧水の郷あらや」を象徴するとともに、洗い物などに利用されていた往時の雰囲気を漂わせています。





[2009 新屋参画屋作成の「地域資源マップ」]

## 2. まちづくりの取り組み

### 1) 景観まちづくりの芽生え

新屋表町通りの景観まちづくりは、2005年度に「大学コンソーシアムあきた」と秋田市が連携して実施した「都市再生モデル調査」をきっかけに始まりました。以後、地域住民のほか、1995年に新屋の地に開学した秋田公立美術工芸短期大学（以下「美短」）、事業者、秋田市が協働し、さまざまな活動を展開しています。

2006年度には、表町通りの模型づくり、地区住民へのアンケート調査、5回にわたるワークショップをもとに、「景観まちづくりガイドライン」を作成しました。

続く2007年度には、地域住民、美短OBを中心に「新屋表町通り活性化推進委員会」が設立され、「愛宕下地蔵湧水広場整備計画」の策定に取り組んだほか、地域交流の場として「屋台塀」および「わなり場」の整備に取り組みました。

### 2) 新屋参画屋の設立

こうした活動の延長として、2008年10月には、旧羽州浜街道の三叉路に位置し、築70年は経過しているという建物を、各種補助金および地元団体からの寄付金、合計約270万円をもとに改修。新屋のまちづくり活動の拠点、美短卒業生の活動の場、美短と地域の接点・交流の場を整備しました。

この建物は、その形状から「三角屋」をイメージすると同時に、今後の新屋のまちづくり活動に様々な世代の人々がかかわり、楽しみながら活動するという願いを込めて「新屋参画屋」と命名されました。

「NPO法人新屋参画屋」は、その整備と維持・管理にあたりるとともに、各種まちづくりイベントの企画・開催などを行う団体として設立されたものです。

自分たちの住むまちの価値を見直し、大切に守り育てようという気持ちを醸成することが活動の中心となっており、これまで「地域資源マップ」を作成したほか、町家などを住民参加によりライトアップする「新屋表町通りライトアップ実験」、活動実績を空き店舗などを使って紹介する「参画ケイカン」、鹿嶋祭にあわせた「写真撮影ツアー」、パネル展「新屋町・秋田市合併70周年展」など、各種活動を積極的に展開しています。

**新屋参画屋**  
上のロゴは、菅野・浩教授と美短卒業生の石田敬太郎さんがデザインしました。

**新屋参画屋**  
営業時間/午前10時～午後5時  
休業日/水・日曜日、祝日  
駐車場/ナイス臨時駐車場(新屋支所裏)  
電話/(828)8561

**貸しスペース ①「ドマ」・②「ザシキ」**  
にぎわい創出のため、「ドマ」と「ザシキ」を貸し出します。詳しくは参画屋事務局へ。☎(828)8561

**使用料金**  
■1スペースにつき  
1,500円/1日(新屋地区のかたは1,000円、美短の学生は500円)  
※11月～4月は経費費として+500円。  
昨年12月下旬には、美短2年生の鈴木良祐さんと保坂剛志さんが、服や絵、ランプなどの展示会を開催しました。

**③新屋表町食堂「わなり場」**  
営業時間/午前11時30分～午後11時(日曜日は午後5時まで)  
休業日/水曜日、祝日  
電話/090-3506-8924  
正午～午後2時30分のランチが好評

[広報あきた 2009.01.16号]

### 3) 新政酒造跡地の整備に向けた取り組み

こうした中、2012年5月になって、新政酒造跡地約6,600㎡の所有者が、土地売却の意向を示すという事態が生じました。

この土地は新屋表町通りの中心に位置する重要な場所であり、地元関係者には、この場所に大型店舗や新屋の歴史とは無関係な施設が建設されることは絶対に避けなければならないという強い思いがありました。

このため、2012年6月、NPO法人新屋参画屋を含む地元5団体は、市に対して、当該土地を買い取り、2013年4月に開学する「秋田公立美術大学」と一体となったまちづくりの核として有効活用するよう要望書を提出。さらに、新屋地区のまちづくりの方向性に関する議論を重ね、2013年7月には市にまちづくりの提言書を提出しました。

市は、これを受ける形で、2013年度に「新屋まちづくり基本構想」を策定し、引き続き2014年度は基本計画の策定に取り組むこととなりました。

#### 【新屋まちづくり基本構想】

- ◇コンセプト : 「芸術と文化が薫るまち新屋」
- ◇方向性 : 新屋らしさ、人材育成、地域交流
- ◇具体的な方策 : 新政酒造跡地に、ガラス工房を中心とし、アトリエ、ギャラリー、ショップ、レストラン・カフェ、交流機能を備えた「まちづくりの拠点施設」を整備

一方、地元の各種団体は、事業実現に向けた機運を盛り上げるため、新政酒造跡地を活用して2014年度から「鹿島祭PRイベント」および「新屋水祭り」を開催しました。

### 4) 新しい風に乗って

2013年4月に秋田公立美術大学が開学し、毎年、約100名のフレッシュな学生を迎え入れることとなりました。「あらかやちやぶちやぶ大学」、「あらか家プロジェクト」といった学生団体も設立され、様々な形で交流も生まれてきています。



【新屋まちづくり拠点施設 基本設計パース】

そして、順調にいけば、2017

年春には、新政酒造跡地にガラス工房を核とした新たなまちづくり拠点施設が完成する予定です。

新屋参画屋に対する期待も大きく膨らむなかで、住まいのまちなみ賞を受賞できことは大変幸運でした。吹き始めた新しい風に乗って、3年間にわたり交付される助成金を最大限活用しながら、一層魅力ある地域づくりに取り組んでいきたいと考えているところです。